

一般国道 153号 駒ヶ根市～伊那市
伊駒アルプスロード事業に係る
事後調査計画書(案)の概要

令和4年8月
国土交通省 中部地方整備局
飯田国道事務所

1. 事業概要

【事後調査計画書P 1～20】

1. 事業概要

1.1 事業者の氏名及び住所

1.2 都市計画対象道路事業の名称

■ 都市計画対象道路事業の名称

都市計画道路 伊駒アルプスロード線

■ 事業者：国土交通省 中部地方整備局

■ 代表者：中部地方整備局長 稲田 雅裕

■ 住所：愛知県名古屋市中区三の丸2丁目5-1

評価書時点からの変更点

事業者の変更

評価書時の事業者：長野県 → 国土交通省に変更

■ 都市計画対象道路事業の目的

事後調査計画書P1

① 混雑の解消

- ◆ 交通容量の拡大、あるいは交通の分散を図る必要がある。

② 円滑で安全な交通の確保

- ◆ 伊那谷（伊南バイパスと伊那バイパス）を結ぶ主要幹線道路（伊駒アルプスロード線）が必要である。
- ◆ 救急車や消防車の早期到着が可能な交通網の構築が必要である。

③ 災害に強い道路網の構築

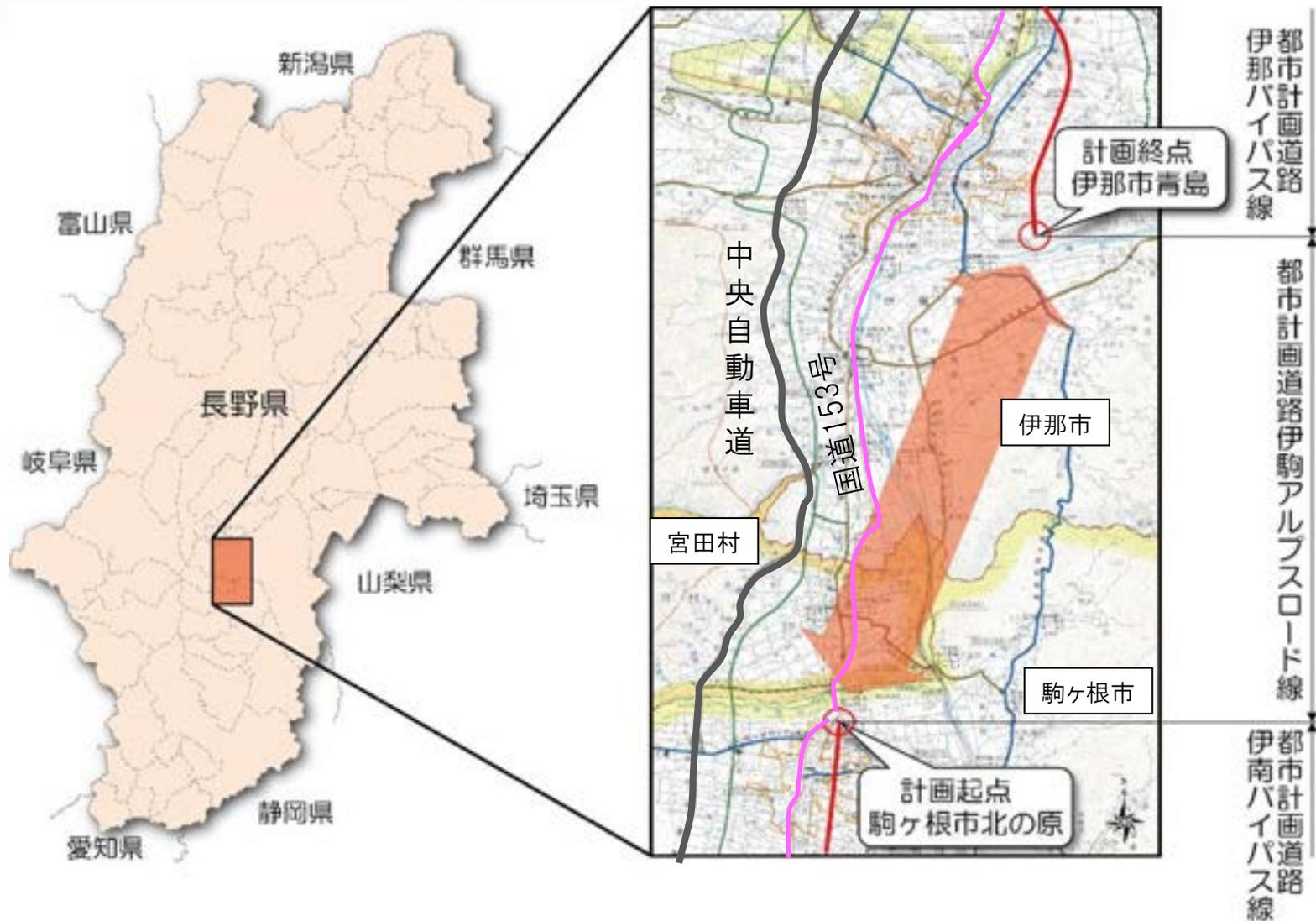
- ◆ 災害発生時において、緊急車両が確実に通行でき、道路が寸断されることの無い幹線的な緊急輸送路が必要である。
- ◆ 中央自動車道が通行止めの際、通行車両が迂回し、交通に支障をきたさない十分な幅の代替道路が必要である。

1. 事業概要

1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 都市計画対象道路事業の位置

事後調査計画書P2



1.事業概要

1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 都市計画対象道路事業の内容

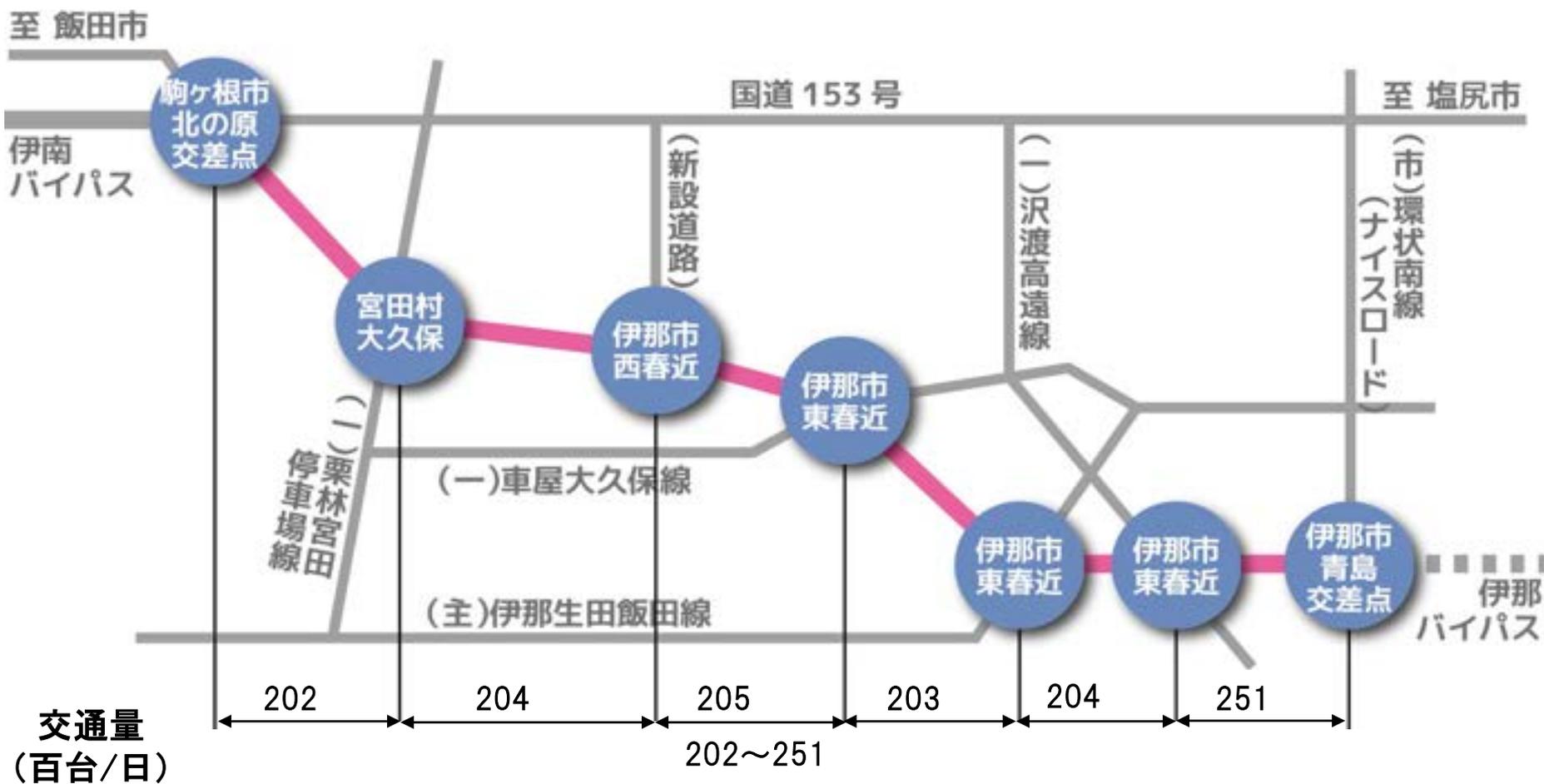
事後調査計画書P5

項目	主な内容	
事業の規模等	事業予定地となる市村	長野県 宮田村 伊那市 駒ヶ根市
	道路延長	約 11.6km
	起点	長野県駒ヶ根市北の原（伊南バイパス接続点）
	終点	長野県伊那市青島（伊那バイパス接続点）
	車線数 / 幅員	4 車線 / 28m
	道路区分	第 3 種第 2 級
	設計速度	60 km / h
	道路構造の概要	盛土、切土、直壁、トンネル及び橋梁・高架

1. 事業概要

■ 都市計画対象道路事業に係る道路の計画交通量

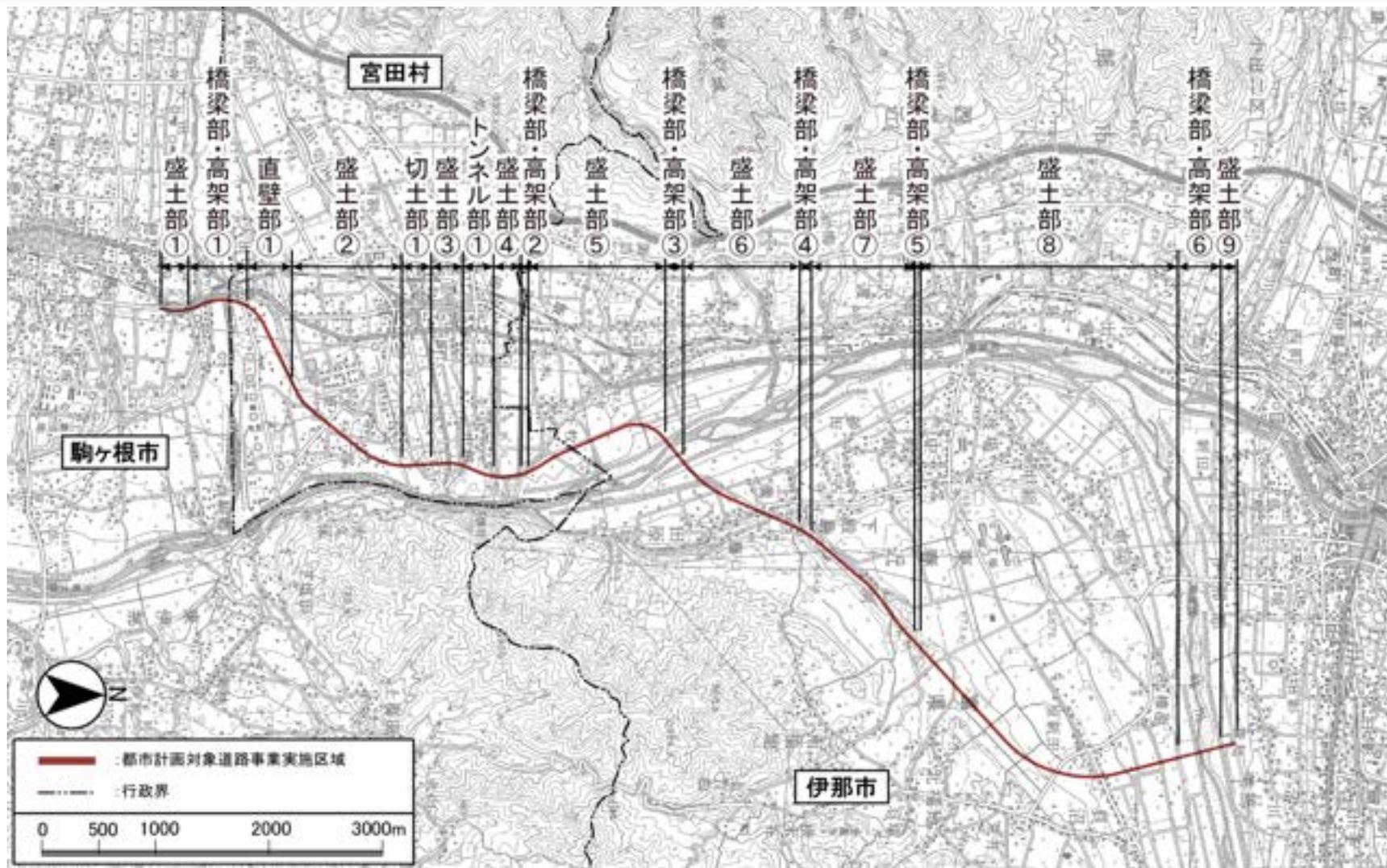
事後調査計画書P7



1. 事業概要

■ 基本的構造 – 道路構造図

事後調査計画書P9

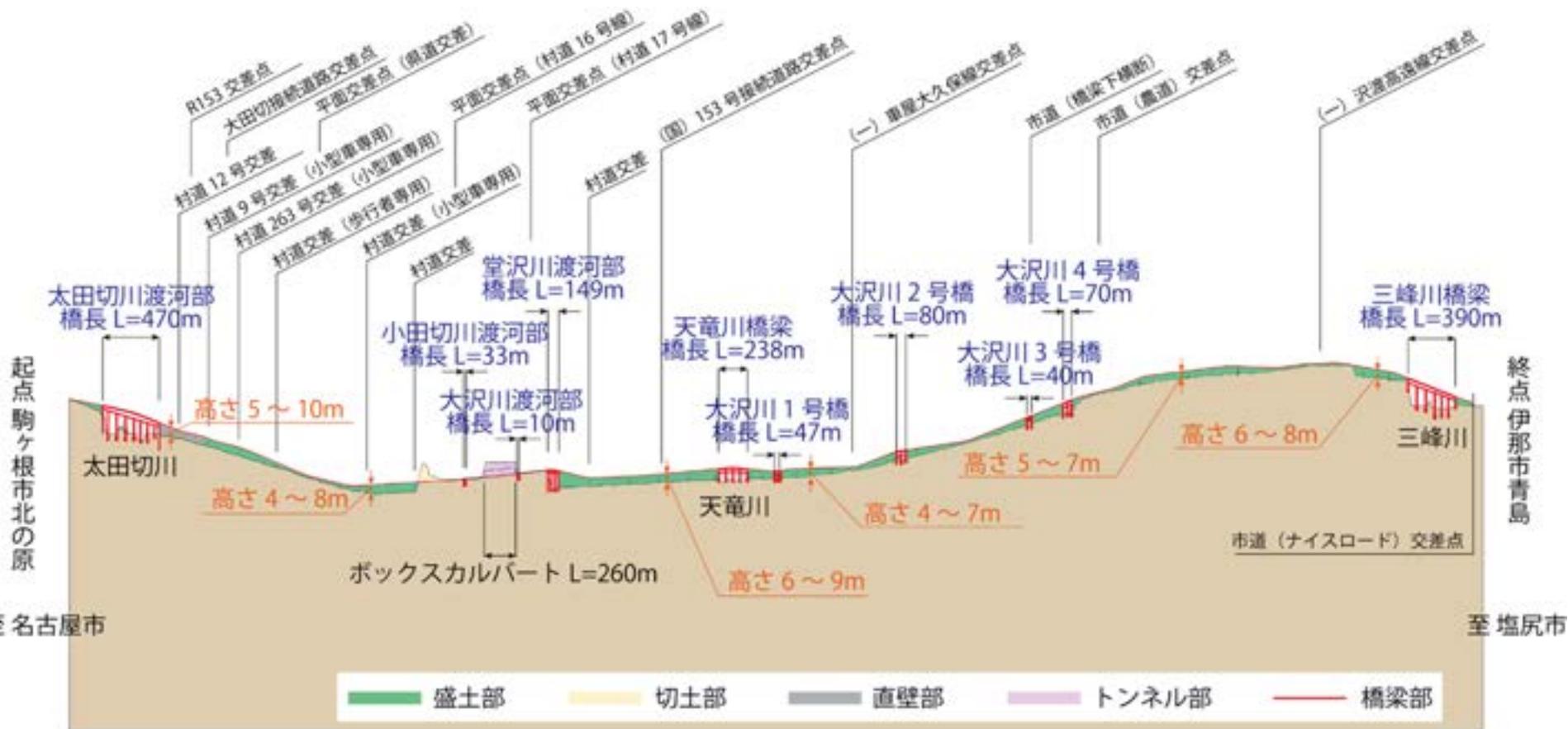


1. 事業概要

1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 基本的構造 — 道路縦断面図

事後調査計画書P9



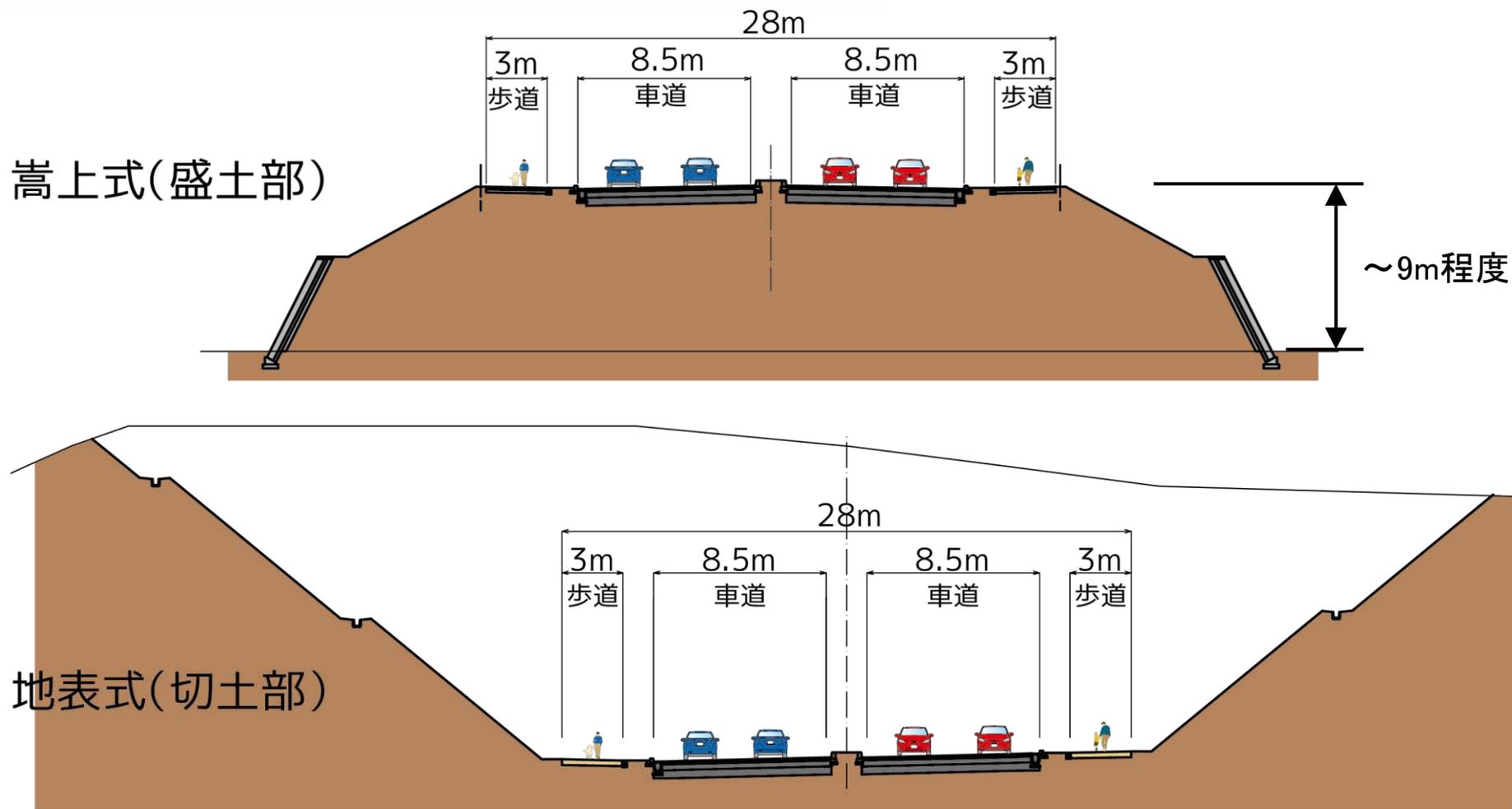
伊駒アルプスロード L=約 11.6 km W=28m

1. 事業概要

1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 基本的構造－標準横断構成

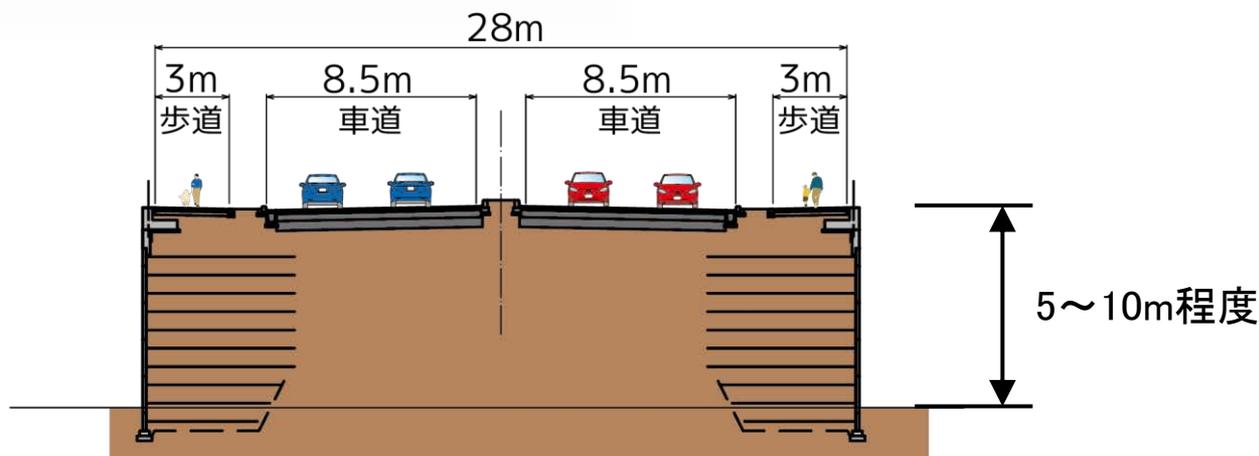
事後調査計画書P10



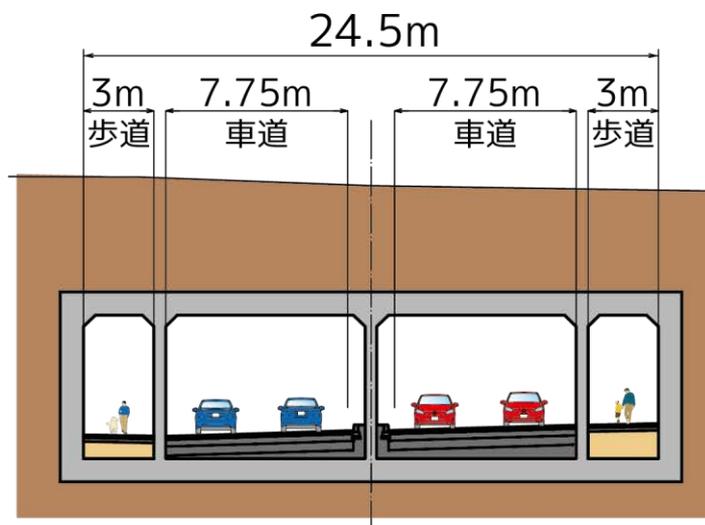
■ 基本的構造 – 標準横断構成

事後調査計画書P10-11

嵩上式(直壁部)



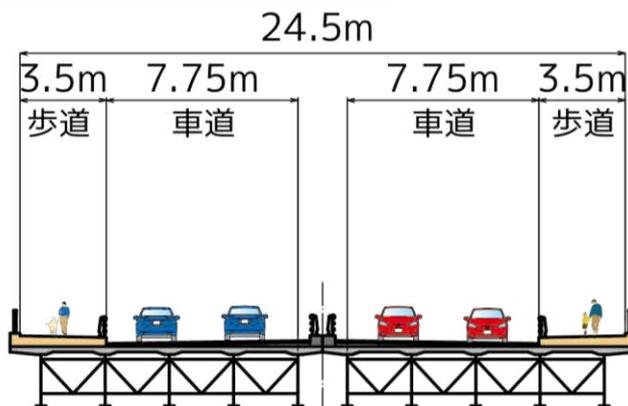
地表式(トンネル部)



■ 基本的構造－標準横断構成

事後調査計画書P11

嵩上式(橋梁部・高架部)



1. 事業概要

■ 工事計画の概要

事後調査計画書P12

道路構造の種類	工事区分	想定される工種
盛土部	土工	擁壁工、道路土工(盛土工)、法面工、舗装工
切土部		掘削工、法面工、舗装工
直壁部		垂直壁構築(擁壁工)、道路土工(盛土工)、舗装工
トンネル部		掘削工、土留工、カルバート工、埋戻工
橋梁・高架部	橋梁・高架	基礎杭工、土留工、掘削工、橋台・橋脚工、橋桁架設工、床版工、舗装工

1. 事業概要

1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 工事計画の概要

事後調査計画書P18

[単位：台 / 日（総台数）]

地点	道路名	1日最大延べ 工事用車両台数
宮田村	村道 12 号線	140
宮田村	一般国道 153 号	800
宮田村	一般県道栗林宮田停車場線	60
宮田村	村道 16 号線	340
伊那市西春近	取付道路	340
伊那市東春近	一般県道車屋大久保線	60
伊那市東春近	市道南部線	200
伊那市東春近	主要地方道伊那生田飯田線	400
伊那市東春近	一般県道沢渡高遠線	200
伊那市美篤	市道ナイスロード	200

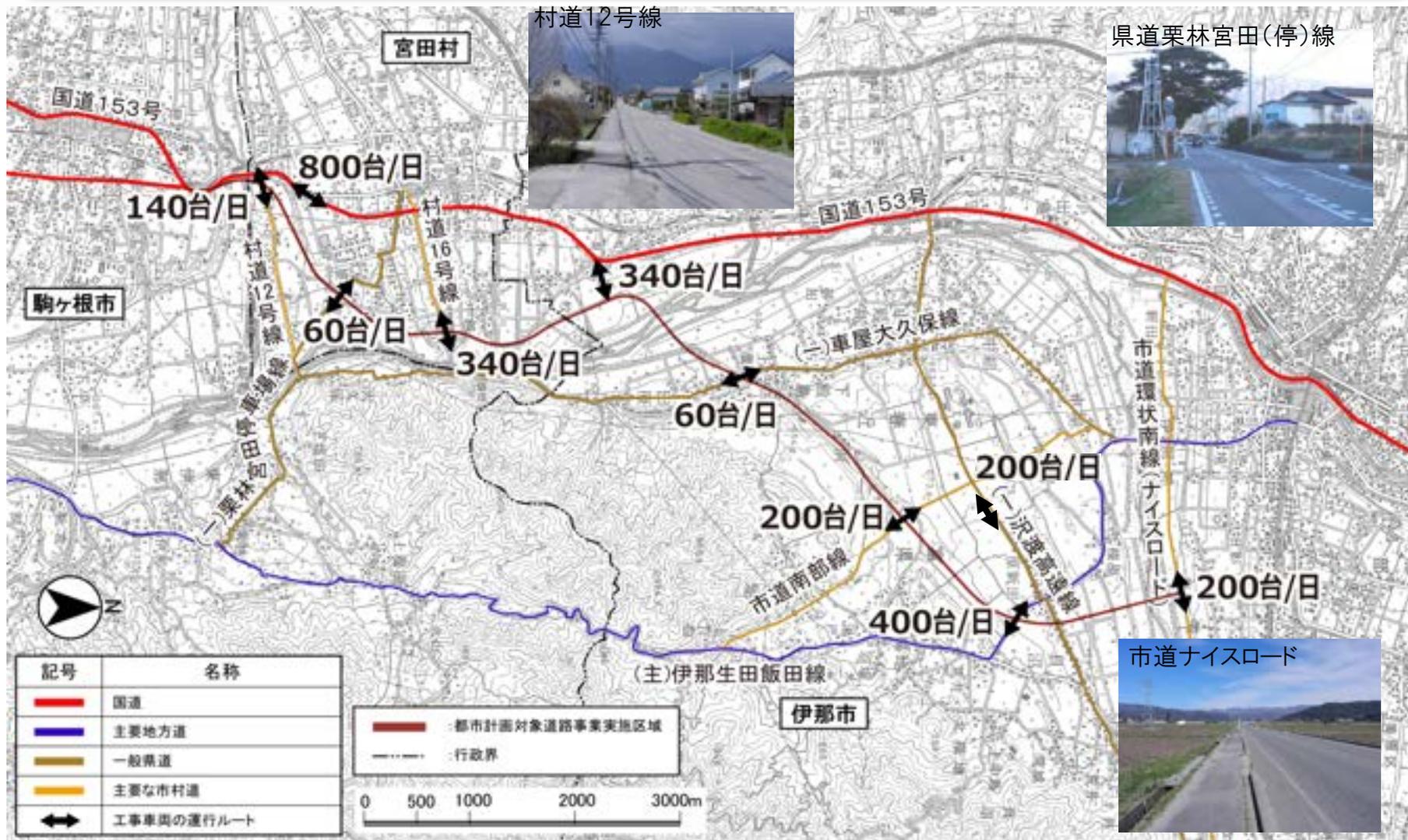
注：工事用車両が運行する時間は、9:00～12:00、13:00～17:00を計画とした。

1.事業概要

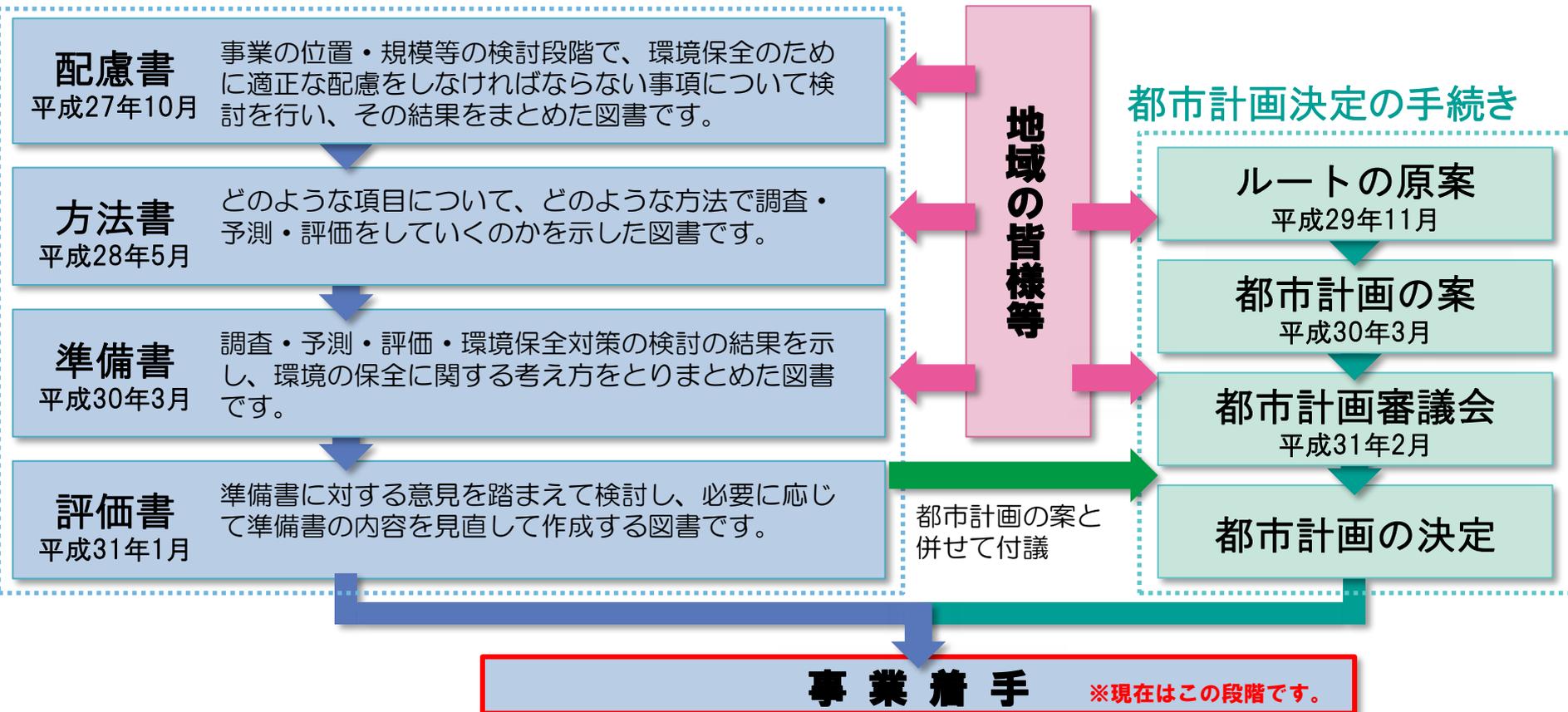
1.3 都市計画対象道路事業の目的及び整備効果

■ 工事計画の概要

事後調査計画書P19



■ 事業の経緯



都市計画道路のルート選定にあたっては、計画段階の環境への配慮事項を踏まえ、既存市街地への影響及び土地利用を考慮して地形改変を減らすことにより、生活・自然環境への影響を低減しています。

2. 事後調査計画

■ 事後調査

事後調査

【事後調査計画書 P21～36】

■ 事後調査の内容

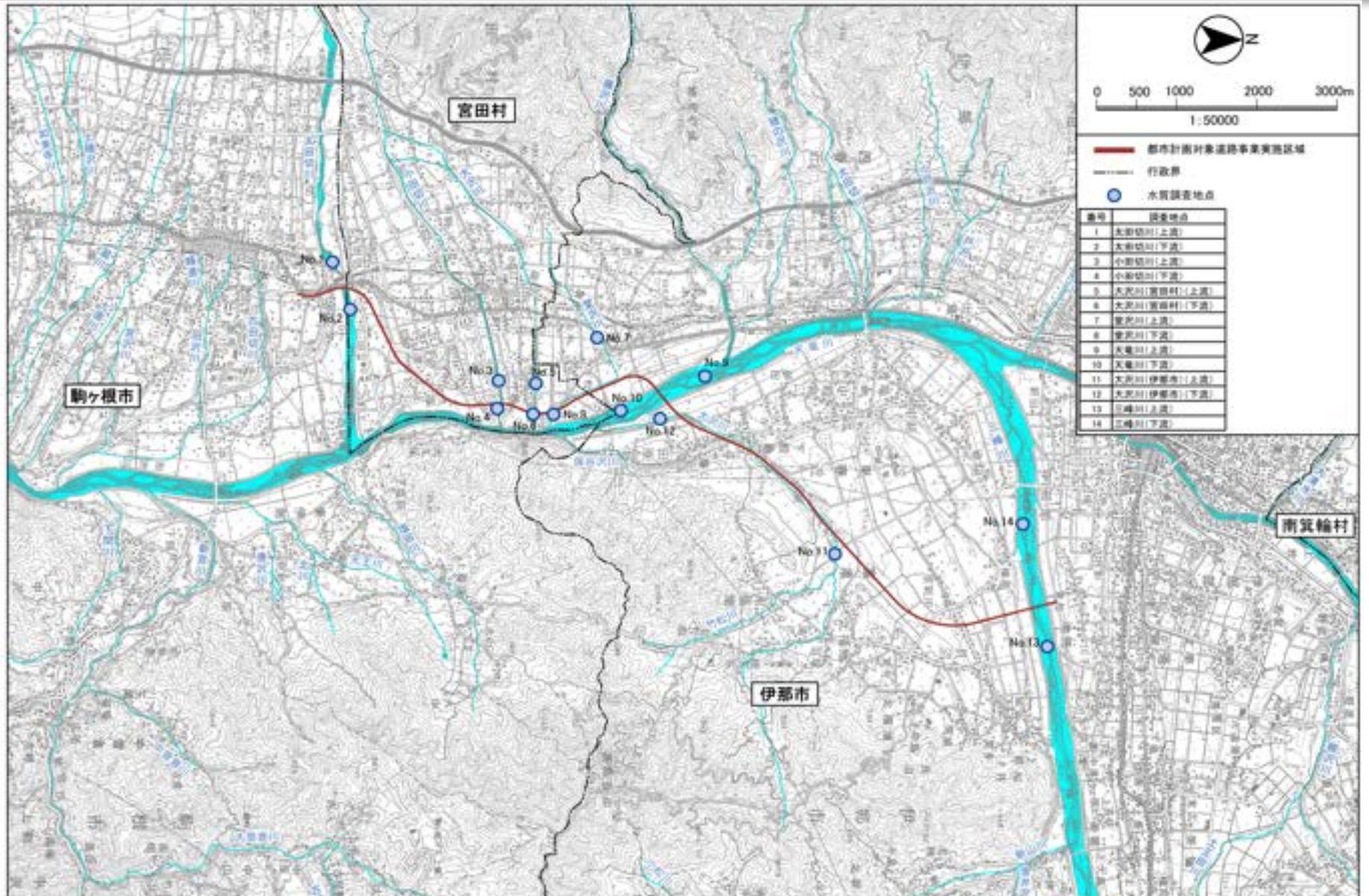
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
水質	水の濁り	切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、水底の掘削	環境保全措置は、効果に係る知見が十分に把握されていると判断できるが、環境保全措置の効果の内容をより詳細にするために実施	水の濁り 水の汚れ	<p>○調査時期 工事中及び供用後に実施 工事中月1回 供用後年4回</p> <p>○調査地点 都市計画対象道路事業実施区域が渡河する河川の上流部及び下流部 (調査地点のNo.2、No.4、No.6、No.8、No.10、No.12、No.14は、評価書の予測地点のNo.1～No.7と同じ地点)</p> <p>○調査方法 採水による室内分析 浮遊物質量 (SS) 水素イオン濃度 (pH)</p>
	水の汚れ	水底の掘削			

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



出典「平成29年度水質、大気及び化学物質測定結果」(平成30年6月 長野県環境部水大気環境課)
「長野県統合型地理情報システム」(平成30年1月確認 長野県企画開発部情報政策課)等

■ 事後調査の内容

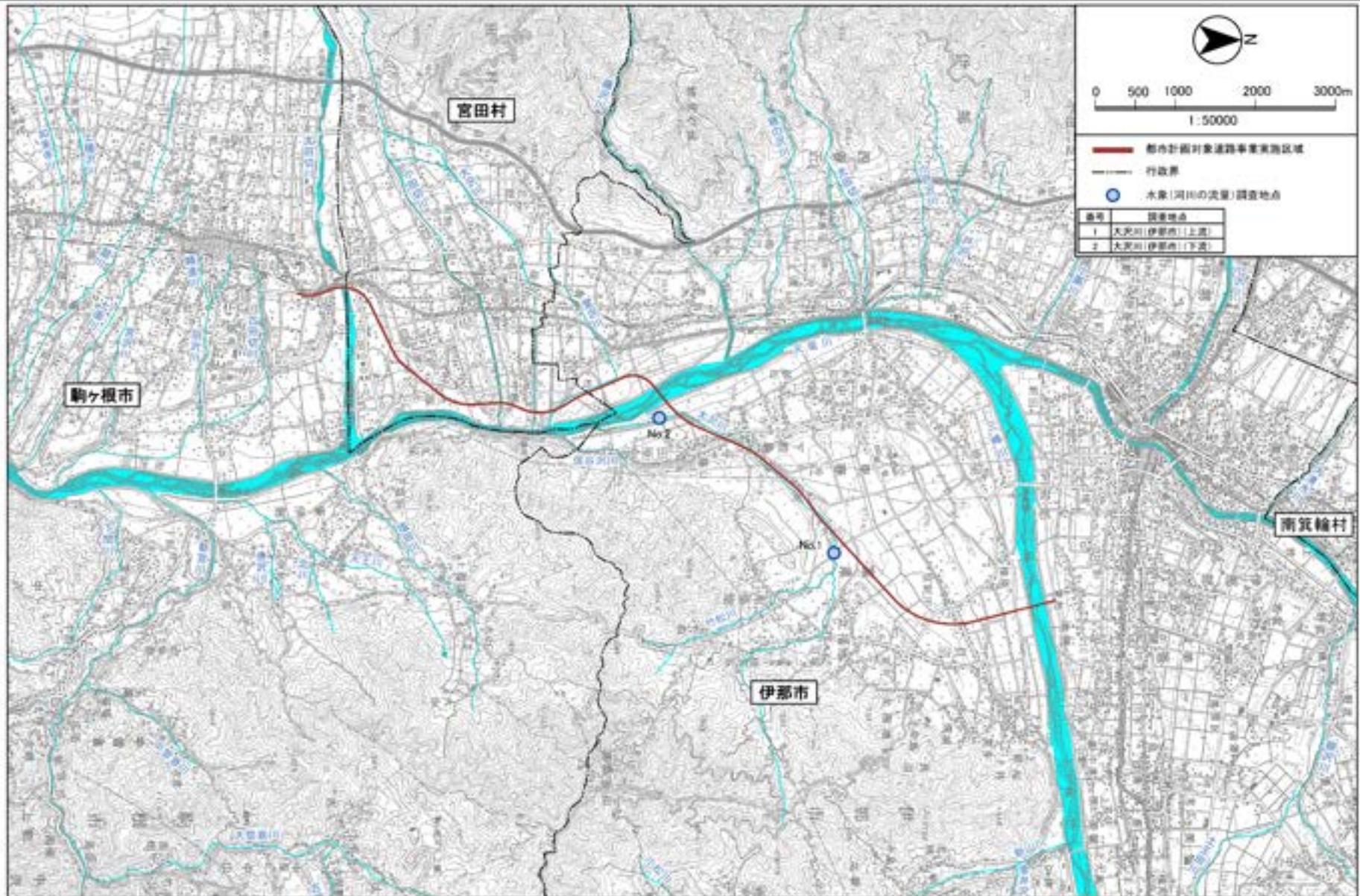
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
水象	河川	道路（地表式又は掘削式）の存在及び切土工等又は既存の工作物の除去	採用した予測手法は事業計画及び調査結果に基づいて予測しており、予測の不確実性は小さいと考えられるが、予測結果を検証するために実施	河川の流量	<ul style="list-style-type: none"> ○調査時期 工事中に実施 月1回 ○調査地点 都市計画対象道路事業実施区域が渡河する河川の内、改変部分の多い大沢川（伊那市）上流部及び下流部 ○調査方法 河川の流量の測定（流速計流速法）

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



出典「平成29年度水質、大気及び地学物質測定結果」(平成29年4月 長野県環境部水大気環境課)
「長野県統合型地理情報システム」(平成20年1月開設 長野県企画開発部情報政策課)④

■ 事後調査の内容

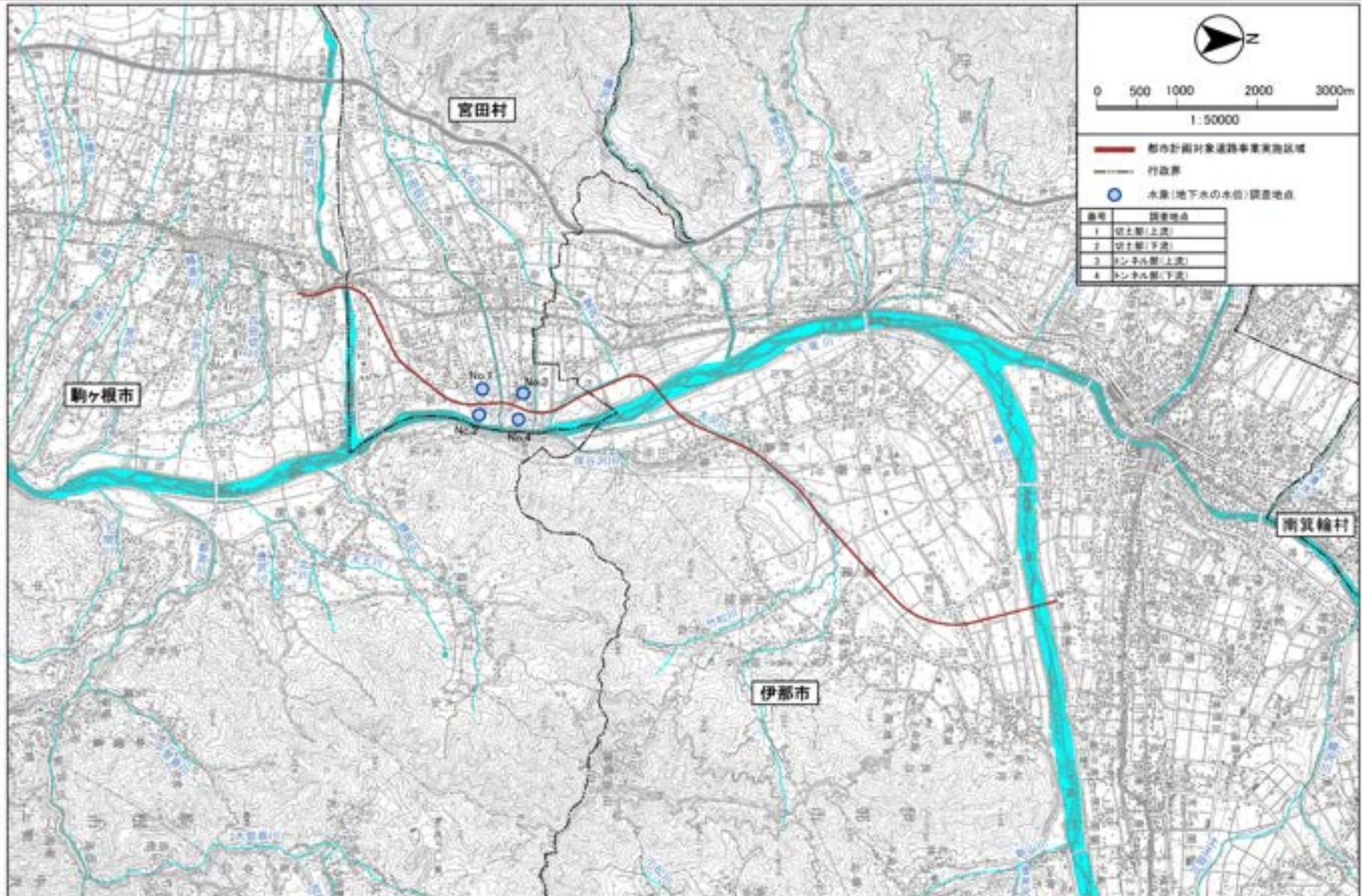
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
水象	地下水	道路（地表式又は掘削式）の存在及び切土工等又は既存の工作物の除去	環境保全措置に採用した「通水工法の採用」及び「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」内容をより詳細なものにするために実施	地下水位	<p>○調査時期 工事3年前程度及び工事中に実施月1回（自動観測）</p> <p>○調査地点 地下水への影響があると予測される地域 （調査地点のNo.2、No.4は、評価書の予測地点のNo.1、No.4と同じ地点）</p> <p>○調査方法 地下水位の観測</p>

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



出典「平成29年度水質、大気及び化学物質測定結果」(平成30年6月 長野県環境部水大気環境課)
 「長野県統合型地理情報システム」(平成30年7月確認 長野県企画振興部情報政策課4F)

■ 事後調査の内容

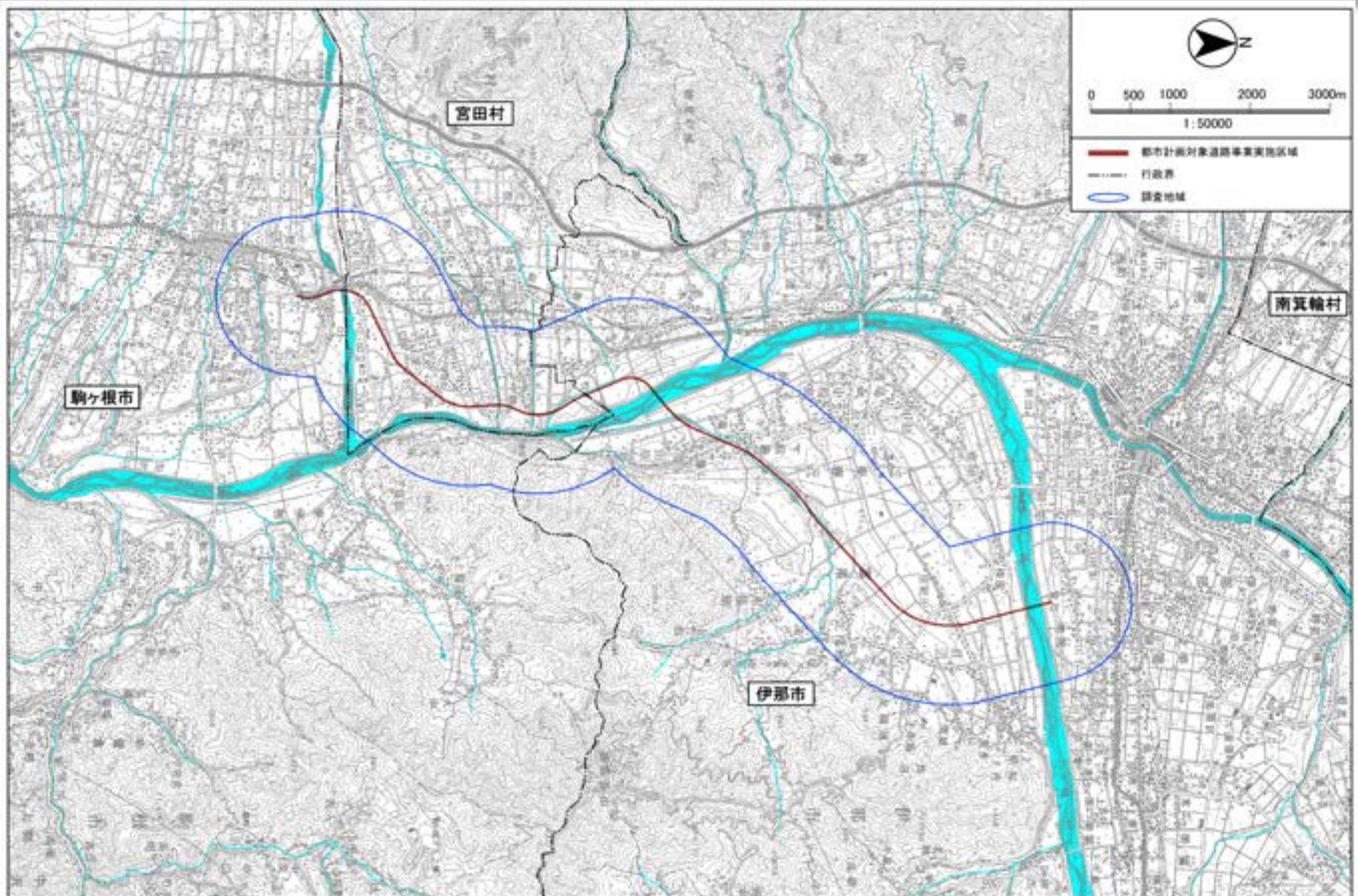
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
動物	重要な種及び注目すべき生息地	道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在、建設機械の稼働、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置	繁殖時の営巣中心や行動圏を変える習性があるため、今後、繁殖時の営巣中心等を事業の実施（工事施工）の影響が及ぶ範囲に変えた場合、当該種・個体の繁殖に支障が生じるおそれがあるため実施	営巣中心の移動により繁殖に影響が生じるおそれのある重要な猛禽類（ハチクマ、オオタカ、ハヤブサ）の生息状況の確認調査	<p>○調査時期 工事3年前程度、工事中に実施 1月～9月までの各月1回</p> <p>○調査地点 過年度に営巣地および、集中的な飛翔行動等が確認された箇所を中心に、猛禽類への影響が想定される範囲（都市計画対象道路事業実施区域から概ね1.0kmの範囲）</p> <p>○調査方法 生息状況のうち、主として繁殖状況（繁殖の有無、巣立ち幼鳥の個体数等） 定点観察調査、林内踏査</p>

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



■ 事後調査の内容

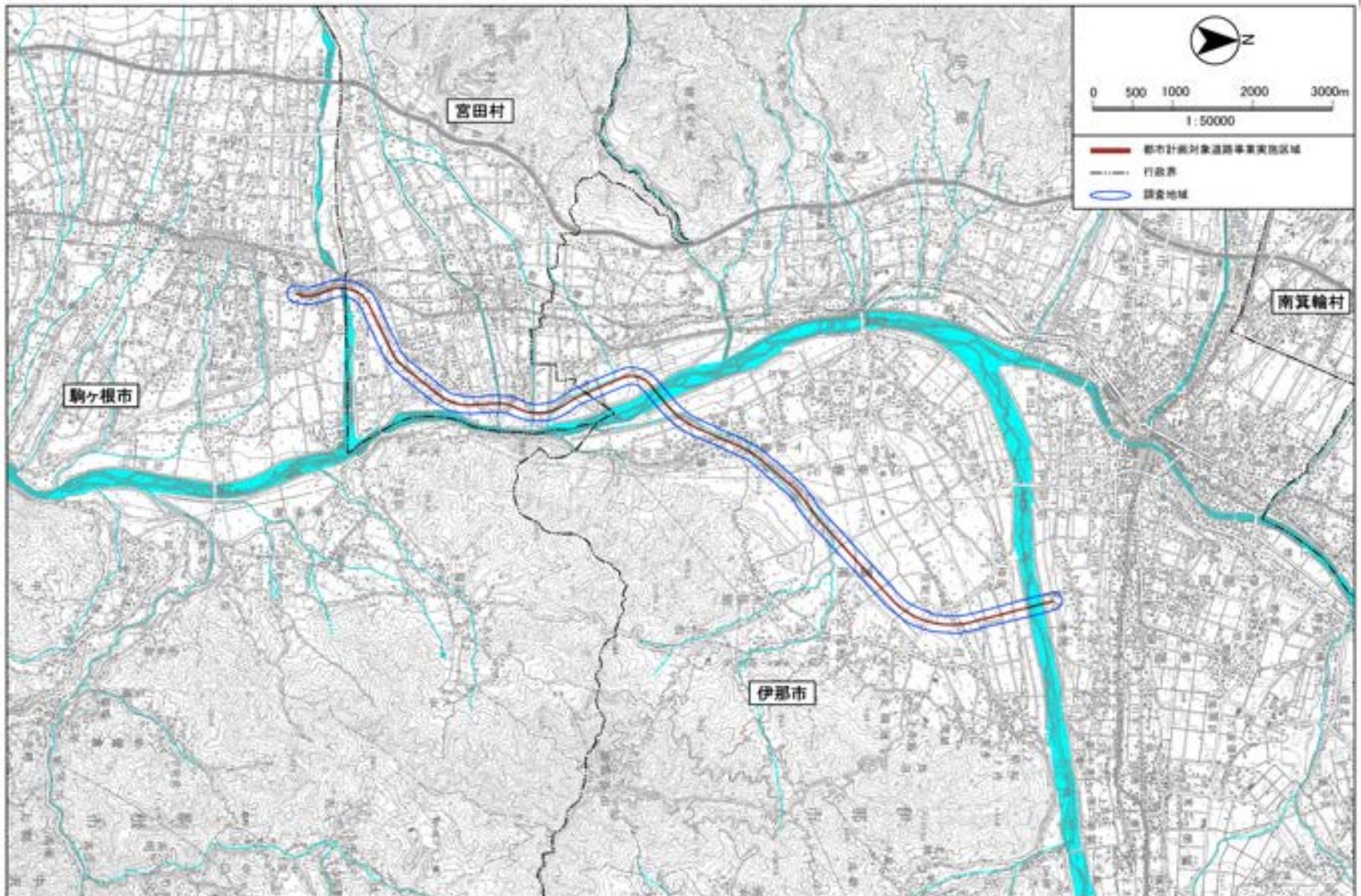
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
植物	重要な種及び群落	道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置	環境保全措置は、既存の知見及び事例、専門家等の意見を参考に実施するが、「移植」については、環境保全措置の効果の内容をより詳細なものにするため実施	移植する植物の現生育地の生育状況調査 移植植物の生育状況調査	<p>○調査時期 工事2年前程度、工事中、供用後に実施（移植等の実施から3年程度を目安とする） 各種の生活史及び生育特性に応じて設定する。 春季、夏季、秋季の各季1回</p> <p>○調査地点 移植する植物の現生育地（都市計画対象道路事業実施区域から概ね100mの範囲） 移植を講じた植物の移植先生育地</p> <p>○調査方法 対象種の現生育地での生育状況 移植を行った個体等の生育状況 モニタリング調査 (株数、形状、開花・結実)</p>

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



■ 事後調査の内容

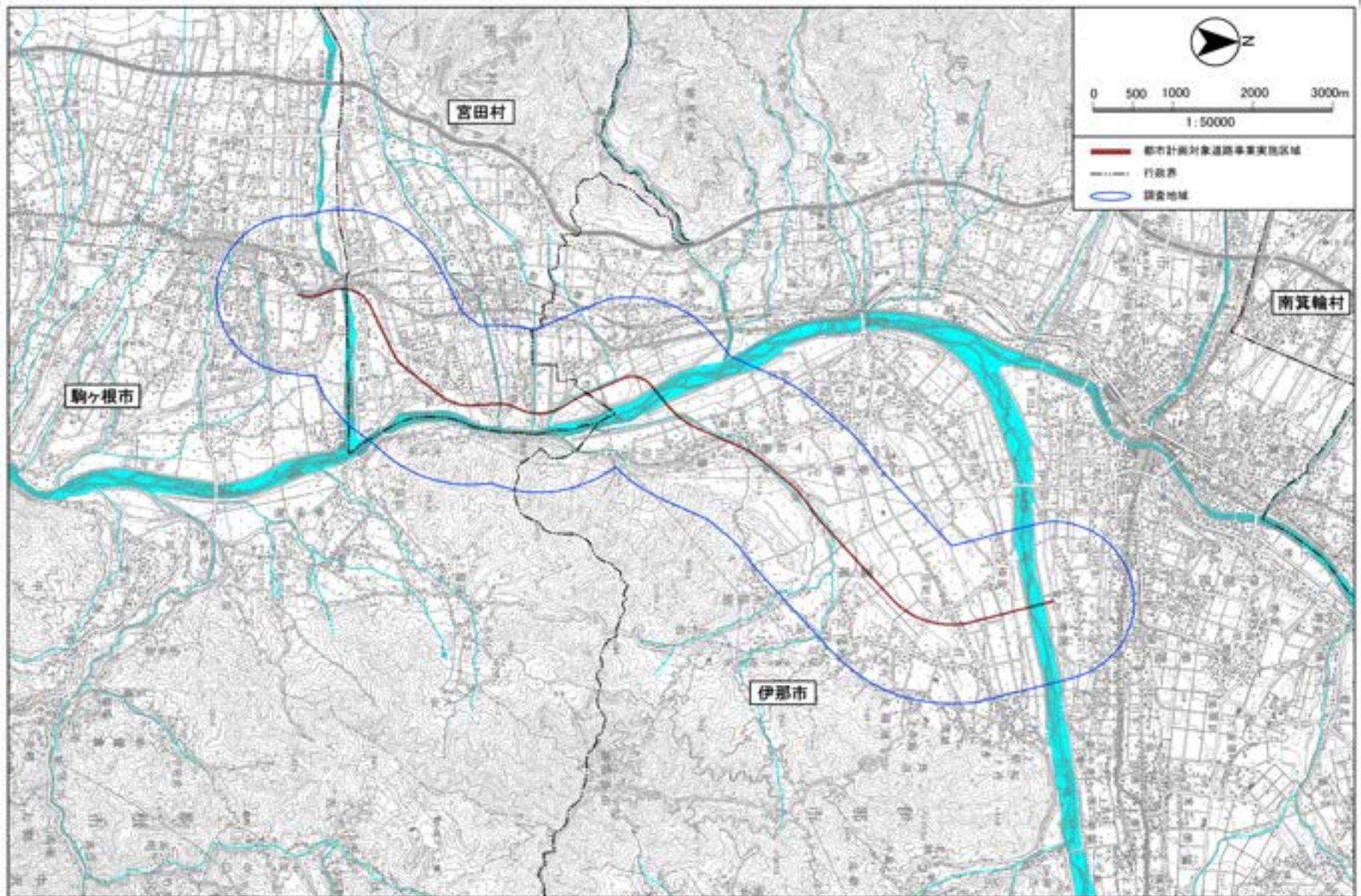
事後調査計画書P21-36

環境要素の大区分	項目		実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分	影響要因の区分			
生態系	地域特徴を 生ける生態系	道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置に係る生態系	繁殖時の営巣中心や行動圏を変える習性があるため、今後、繁殖時の営巣中心等を事業の実施（工事施工）の影響が及ぶ範囲に変えた場合、当該種・個体の繁殖に支障が生じるおそれがあるため実施	営巣中心の移動により繁殖に影響が生じるおそれのある注目種・群集の上位性の種で重要な猛禽類（オオタカ、ハヤブサ）の生息状況の確認調査	<p>○調査時期 工事3年前程度、工事中に実施 1月～9月までの各月1回</p> <p>○調査地点 過年度に営巣地および、集中的な飛翔行動等が確認された箇所を中心に、猛禽類への影響が想定される範囲（都市計画対象道路事業実施区域から概ね1.0kmの範囲）</p> <p>○調査方法 生息状況のうち、主として繁殖状況（繁殖の有無、巣立ち幼鳥の個体数等） 定点観察調査、林内踏査</p>

※赤字は、評価書から更新箇所

■ 事後調査の内容

事後調査計画書P21-36



2. 事後調査計画

■その他の調査※

その他の調査

【事後調査計画書 P37～47】

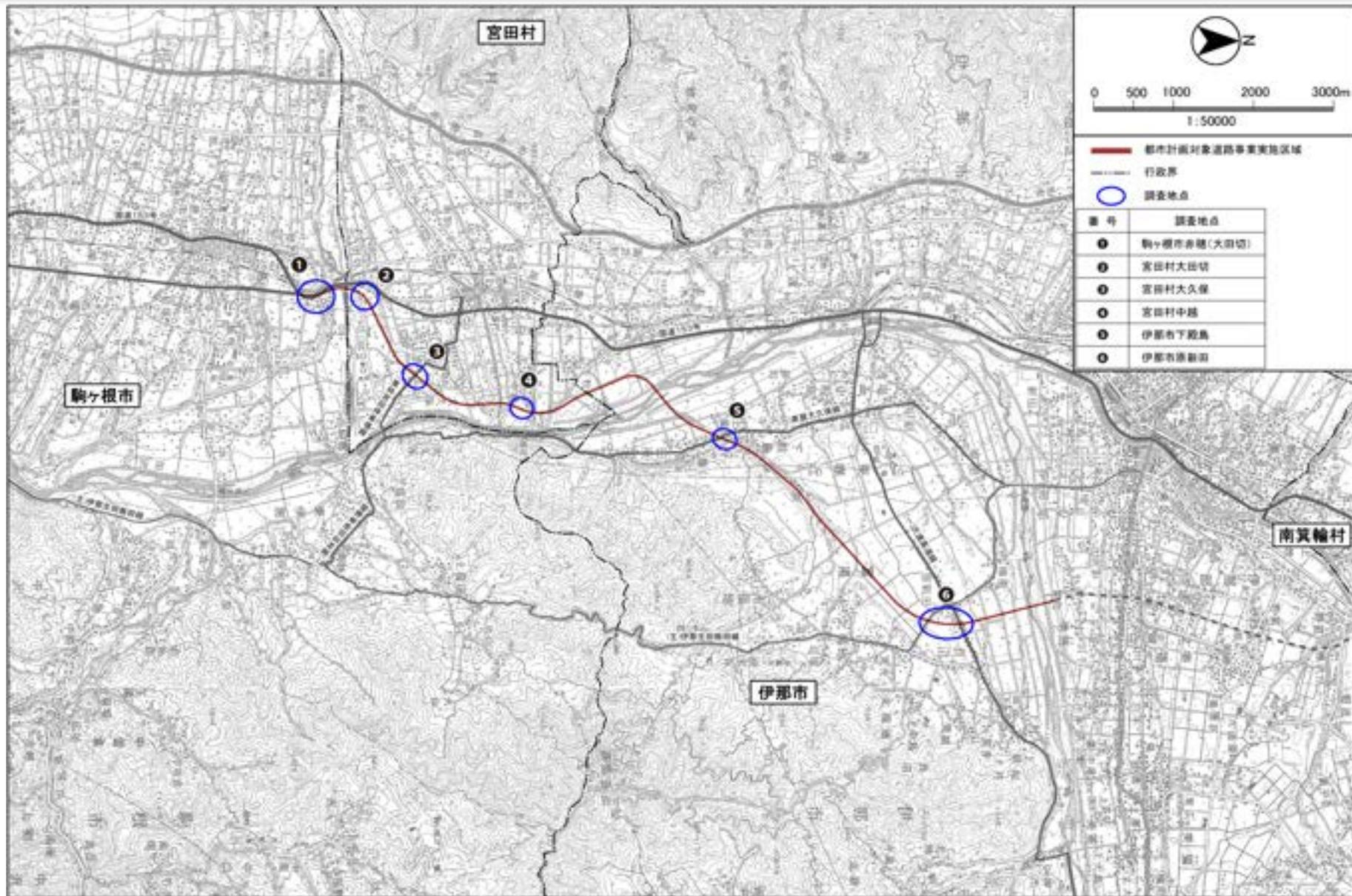
※長野県知事の意見、長野県環境影響評価技術委員会の意見等に基づき、環境への配慮として実施する調査です。

2. 事後調査計画

事後調査計画書P37-47

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
大気質	自動車の走行に係る大気質	長野県知事意見及び長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 風向・風速	<p>○調査時期 供用後に実施 年間4回（四季）を1回</p> <p>○調査地点 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響範囲内に住居等の保全対象が存在する地域及び立地することが予定される地域 評価書の予測地点と同じ6箇所／駒ヶ根市赤穂、宮田村大田切、宮田村大久保、宮田村中越、伊那市下殿島、伊那市原新田)</p> <p>○調査方法 現地調査</p>

2. 事後調査計画

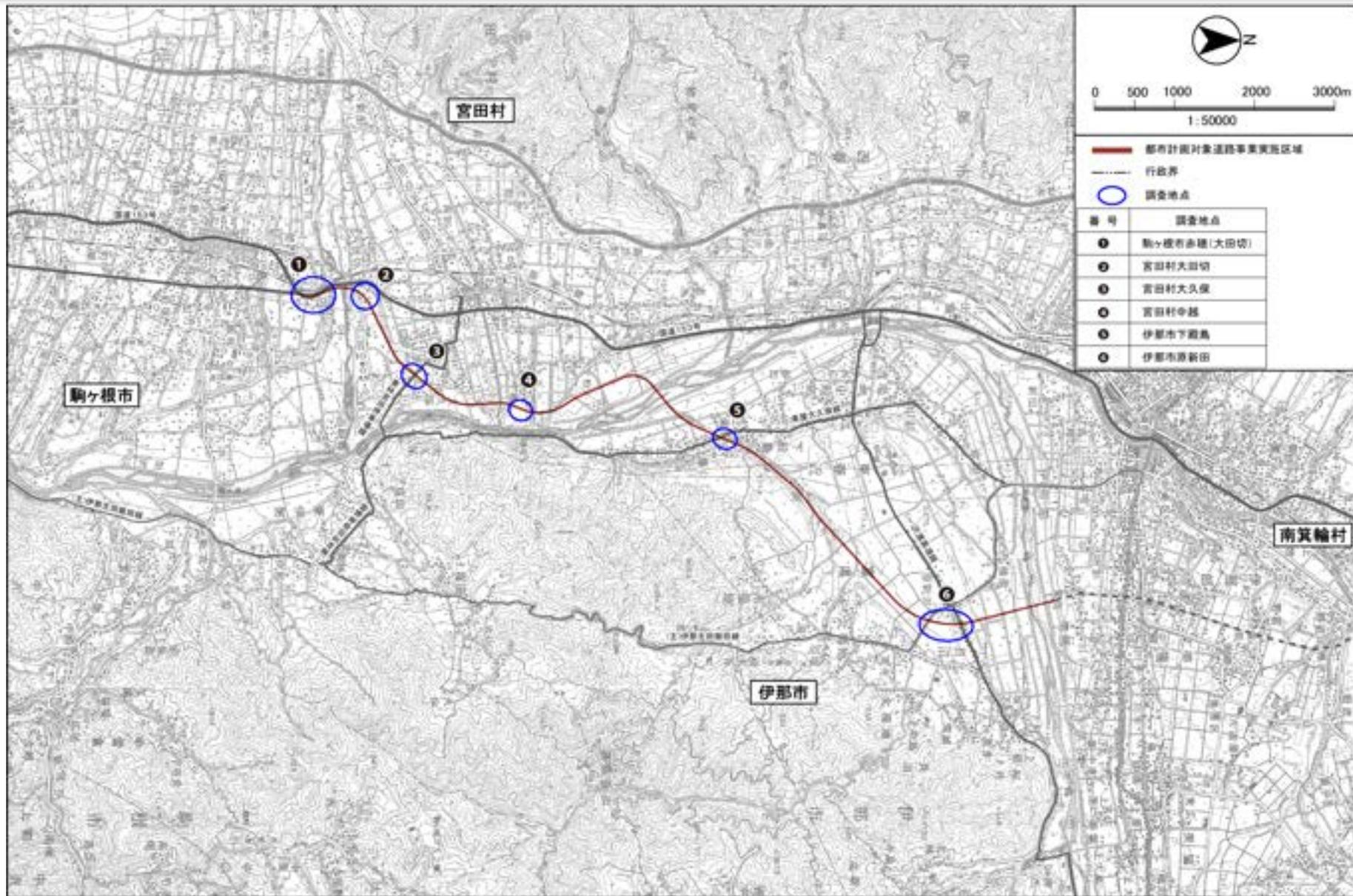


※ 点線区間は、測量線区間を示す。

2. 事後調査計画

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
騒音	自動車の走行に係る騒音	大臣意見及び長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえ実施	等価騒音レベル (L_{Aeq})	<p>○調査時期 詳細設計時及び供用後に実施 詳細設計時は1回 供用後は1回</p> <p>○調査地点 騒音の影響範囲内に住居等の保全対象が存在する地域及び立地することが予定される地域 (評価書の予測地点と同じ6箇所／駒ヶ根市赤穂、宮田村大田切、宮田村大久保、宮田村中越、伊那市下殿島、伊那市原新田)</p> <p>○調査方法 詳細設計時は予測検討 供用後は現地調査</p>

2. 事後調査計画

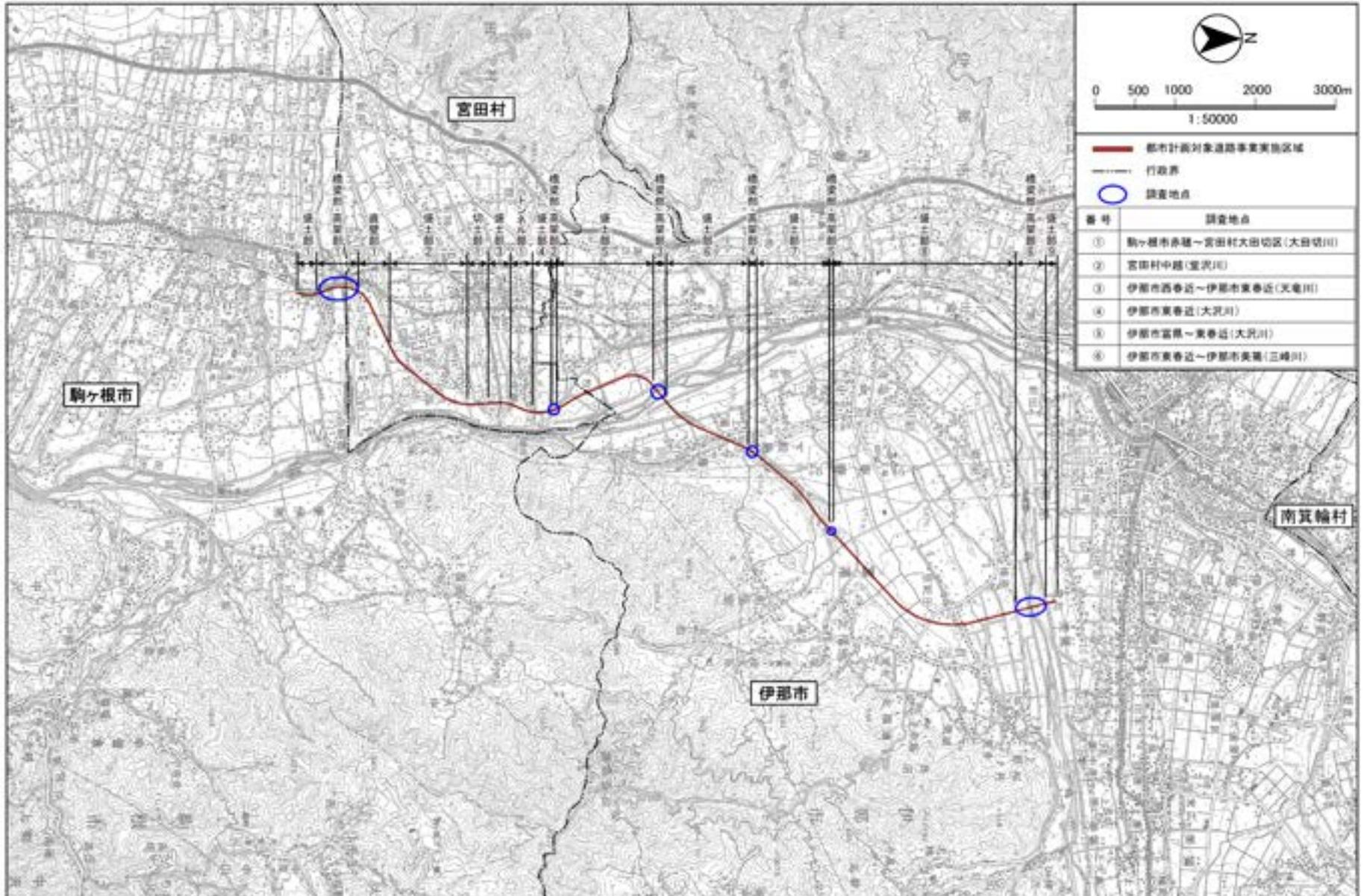


※ 点線区間は、測量線区間を示す。

2. 事後調査計画

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
振動	建設機械の稼働に係る振動	長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	振動レベルの80%レンジ上端値(L ₁₀)	<p>○調査時期 橋梁・高架部工事最盛期となる時期に1回</p> <p>○調査地点 振動の影響範囲内に住居等の保全対象が存在する地域及び立地することが予定される地域 (6箇所/駒ヶ根市赤穂～宮田村大田切区(太田切川)、宮田村中越(堂沢川)、伊那市西春近～伊那市東春近(天竜川)、伊那市東春近(大沢川)、伊那市富県～東春近(大沢川)、伊那市東春近～伊那市美篤(三峰川))</p> <p>○調査方法 現地調査</p>

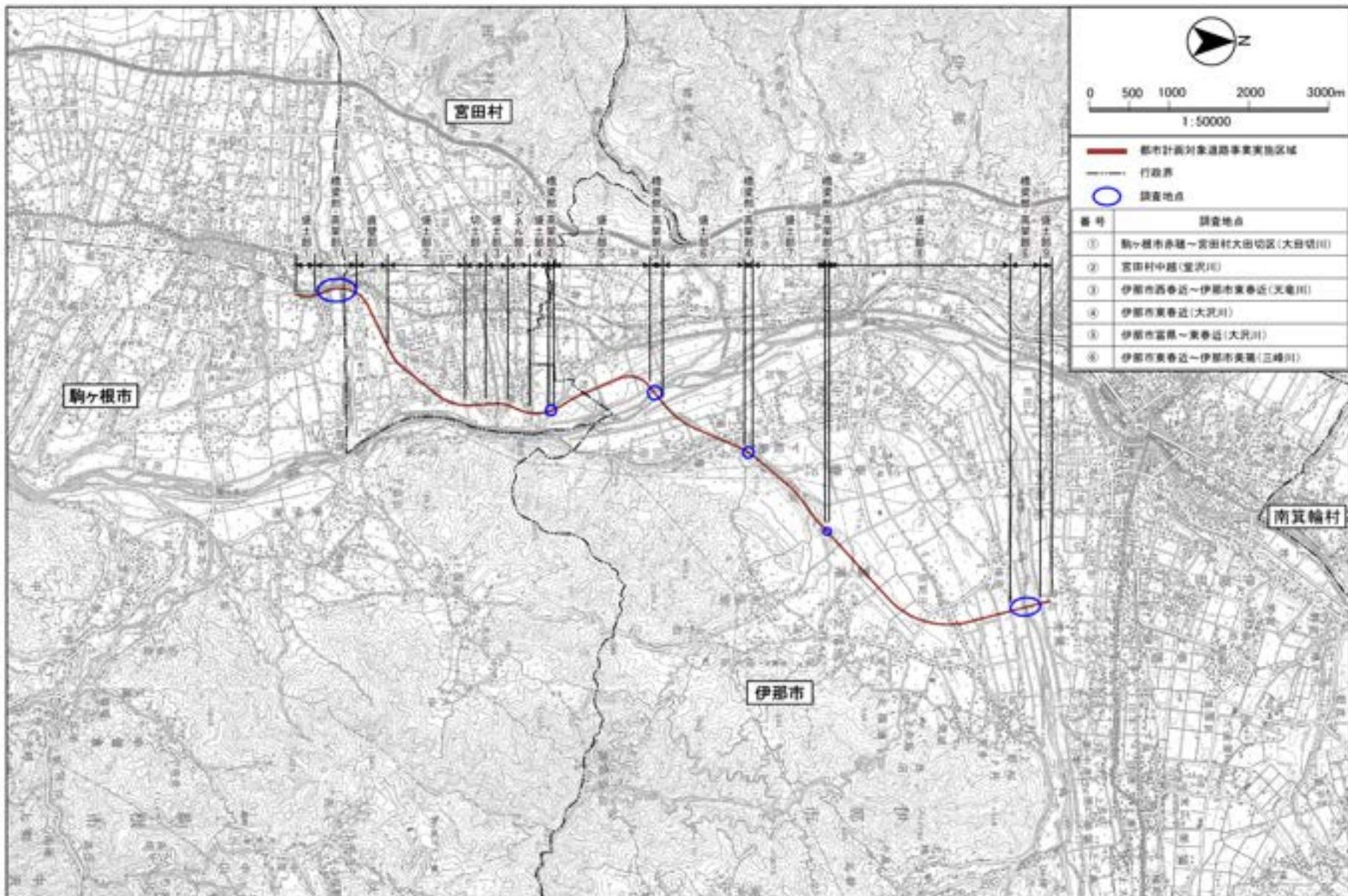
2. 事後調査計画



2. 事後調査計画

環境要素の大区分	項目	実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分			
低周波音	建設機械の稼働に係る低周波音	長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	一般環境中に存在する低周波音圧レベル(L ₅₀) ISO7196に規定されたG特性低周波音圧レベル	<p>○調査時期 橋梁・高架部工事最盛期となる時期に1回</p> <p>○調査地点 低周波の影響範囲内に住居等の保全対象が存在する地域及び立地することが予定される地域 (6箇所/駒ヶ根市赤穂～宮田村大田切区(太田切川)、宮田村中越(堂沢川)、伊那市西春近～伊那市東春近(天竜川)、伊那市東春近(大沢川)、伊那市富県～東春近(大沢川)、伊那市東春近～伊那市美篤(三峰川))</p> <p>○調査方法 現地調査</p>

2. 事後調査計画

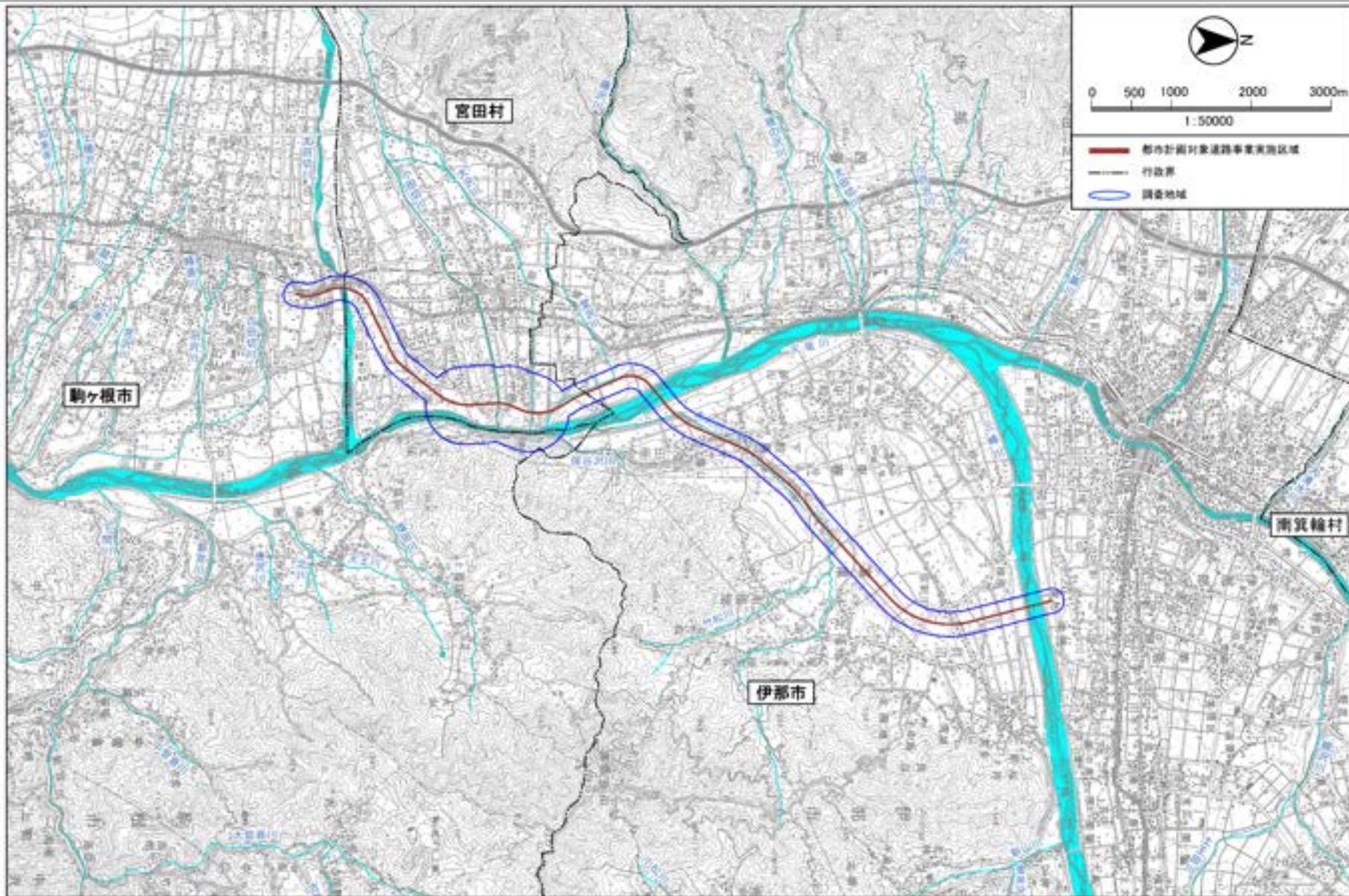


2. 事後調査計画

事後調査計画書P37-47

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
地下水	利水水源 (井戸等)	長野県知事意見、大臣意見及び長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	利水水源（井戸等）状況の把握	<p>○調査時期 工事3年前程度及び工事中及び工事終了段階に実施 工事前に井戸分布等の詳細な調査を1回 工事中及び工事終了段階の調査は、工事前の調査結果に応じて調査頻度を検討</p> <p>○調査地点 路線から150mの範囲 （トンネル及び切土部は路線から500mの範囲）</p> <p>○調査方法 現地調査</p>

2. 事後調査計画



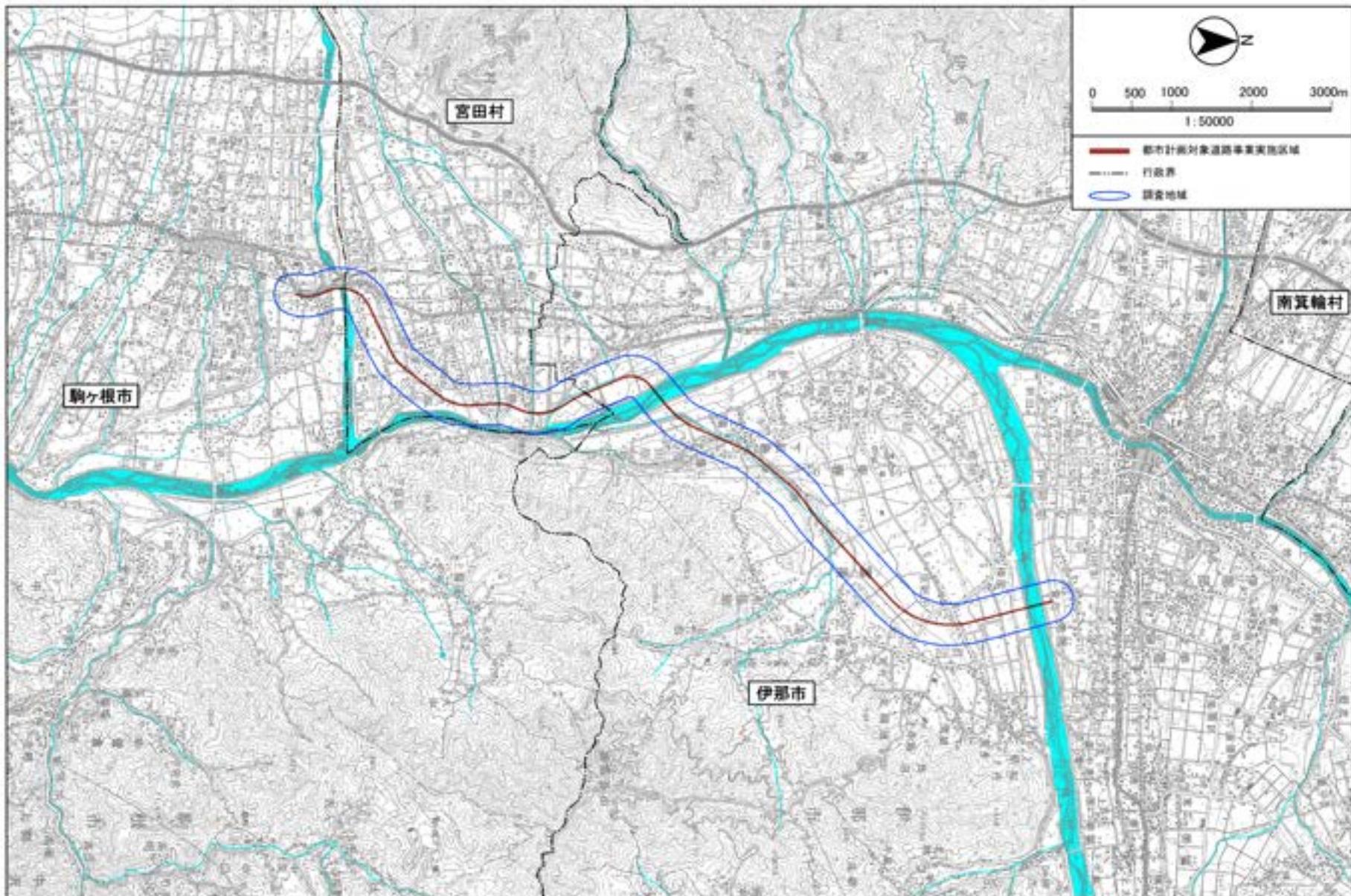
出典「平成29年度水害、大気及び化学物質調査結果」(平成30年4月 長野県環境部水大気環境課)
『長野県総合型地理情報システム』(平成30年3月確認 長野県企画振興部情報政策課)※

2. 事後調査計画

環境要素の大区分	項目	実施理由	調査項目	調査内容
	環境要素の区分			
動物	ナゴヤダルマガエル、クロツバメシジミ、ミヤマシジミ及びオオムラサキ	長野県知事意見及び長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	生息状況の把握や、食草・食樹等の生育状況の把握	<p>○調査時期 工事2年前程度及び工事中及び供用後に実施 ナゴヤダルマガエル：繁殖期に2回（5-6月）、夜間に確認 クロツバメシジミ：春季(5月)及び夏(7-8月)の発生期に各1回、食草であるツメレンゲの生育状況とあわせて確認 ミヤマシジミ：春季（5月末-6月）、夏季（7月末-8月）及び秋季（9-10月）の発生期に各1回、食草であるコマツナギの生育状況とあわせて確認 オオムラサキ：越冬期(12-2月)、初夏（6-7月）の発生期に各1回、食樹であるエノキ・エゾエノキの生育状況とあわせて確認</p> <p>○調査地点 過年度に生息が確認された箇所を中心に、動物への影響が想定される範囲（都市計画対象道路事業実施区域から概ね250mの範囲）</p> <p>○調査方法 現地調査</p>

2. 事後調査計画

事後調査計画書P37-47

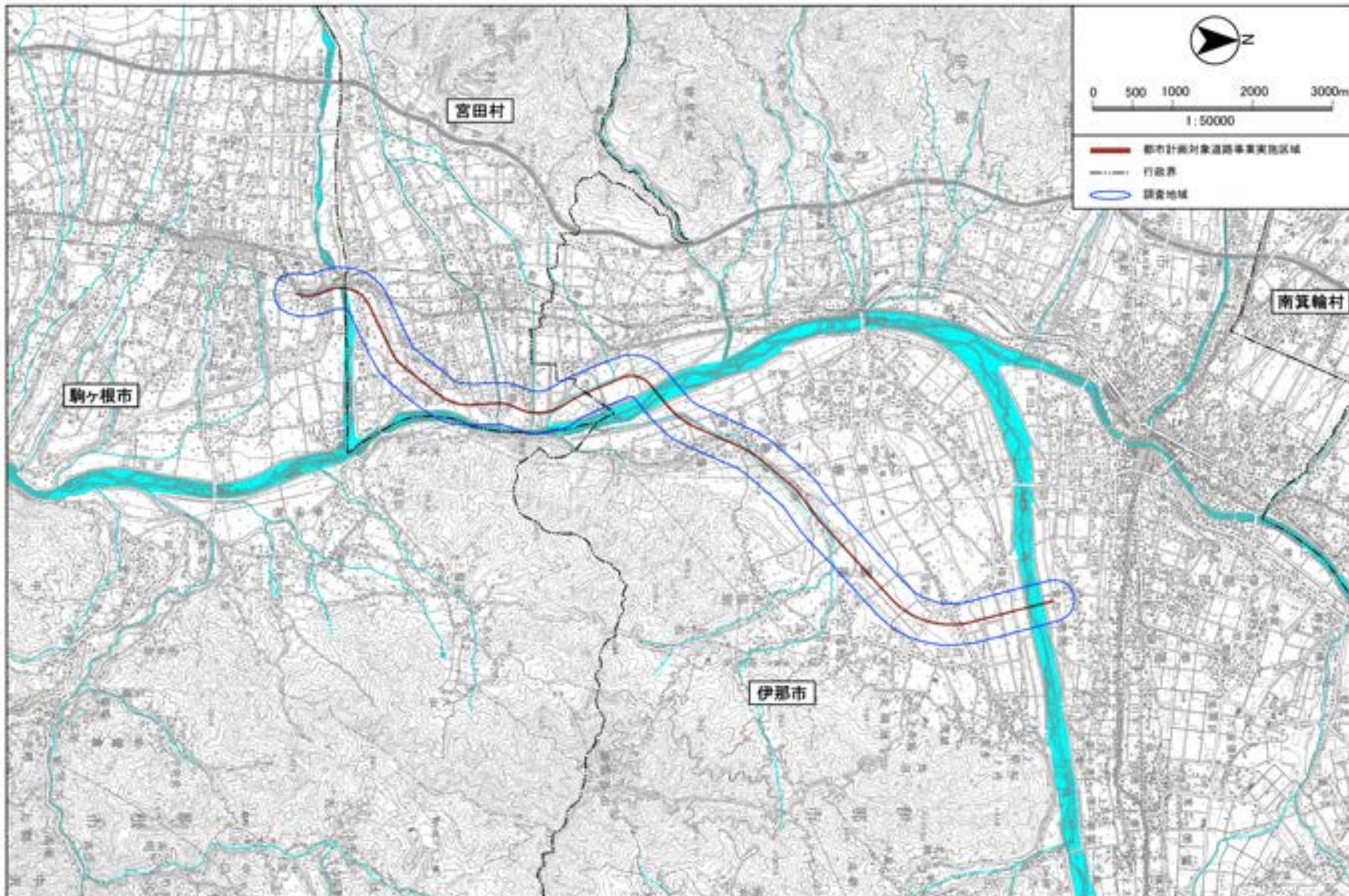


2. 事後調査計画

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
動物	ゲンジボタル及 びヘイケボタル	長野県知事意 見を踏まえて 実施	生息状況の把握	<p>○調査時期 工事2年着手前、供用後に実施 ゲンジボタル及びヘイケボタルの 活動期である初夏～夏季に2回、 夜間に確認</p> <p>○調査地点 過年度に生息が確認された箇所を 中心に、動物への影響が想定され る範囲（都市計画対象道路事業実 施区域から概ね250mの範囲）</p> <p>○調査方法 夜間の目視確認</p>

2. 事後調査計画

事後調査計画書P37-47



2. 事後調査計画

環境要素 の大区分	項目	実施理由	調査 項目	調査内容
	環境要素の区分			
植物	イヌハギ、 ミクリ属の一種	長野県知事意見及び長野県環境影響評価技術委員会の意見を踏まえて実施	生育状況の把握	<p>○調査時期 工事2年前程度に調査を実施し、必要に応じてその後の対応を検討 イヌハギ及びミクリ類が花期をむかえる夏季～秋季に1回</p> <p>○調査地点 過年度に生育が確認された箇所を中心に、植物への影響が想定される範囲（都市計画対象道路事業実施区域から概ね100mの範囲）</p> <p>○調査方法 踏査</p>

2. 事後調査計画

事後調査計画書P37-47

